

駒沢オリンピック公園総合運動場 改修・改築基本計画

平成22年7月



東京都

■ 目次

I	改修・改築基本計画策定の経緯と考え方	1
II	敷地・施設の概要	3
III	施設の現状と課題	5
IV	改修・改築の基本方針	9
V	各施設の整備内容	10
VI	新規駐車場整備の検討	13
VII	改修・改築スケジュール	14

I 改修・改築基本計画策定の経緯と考え方

1 策定の経緯

駒沢オリンピック公園総合運動場（以下「本運動場」と言う。）は、昭和 39 年 10 月開催の東京オリンピックの第 2 会場として使用された後、都内における総合スポーツ施設として設置された。

緑あふれる都市公園の中に複合的にスポーツ施設が配置されている本運動場では、毎年多様なスポーツ大会が開催され、多くの都民がスポーツ観戦を楽しみ、また、施設を利用して自らの身体を動かすなど、スポーツ振興の拠点として重要な役割を担っている。

しかしながら、本運動場の各施設は、竣工より約 45 年が経過し、この間、施設機能維持のための補修等は行ってきたが、全般的に経年劣化が進行しており、抜本的な改善が必要な状況となってきた。

このため、当面、早期に対応が必要な改修については順次進めながら、以下の経過で中長期的な改修計画の検討を進めてきた。

（1）東京都スポーツ振興基本計画における考え方

「東京都スポーツ振興基本計画（平成 20 年 7 月策定）」は、「10 年後の東京」計画の 8 つの目標に沿った 2016 年「スポーツ都市東京」の姿を提示しており、その中で、都立スポーツ施設の整備については、その役割を明らかにした上で、計画的な改修・改築を行っていくとしている。

○都立大規模施設の計画的な改築・改修（東京都スポーツ振興基本計画より抜粋）

スポーツ施設は、「身近な施設」と「全都・広域施設」の 2 つに分けることができます。スポーツ施設を効果的・効率的に運営していくためには、各施設の役割を明確にし、相互の連携を緊密にすることにより、全施設を有機的・一体的に運営することが重要です。そこで、都立体育施設については、区市町村を越えるスポーツ大会や交流の場として、また、国際大会も開催できる広域的施設としての機能を重視していきます。

施設の整備についても、こうした視点に立ち、今後、大規模大会開催のための施設需要や都民のスポーツニーズ、財政状況等を踏まえ、総合的に整備していきます。

具体的には、東京体育館に引き続き、駒沢オリンピック公園総合運動場、東京武道館、東京辰巳国際水泳場について、施設の現況を把握するための劣化度調査を行い、長期的な保全計画を策定し、計画に基づき老朽化した設備の更新、外壁や屋根の補修等を実施します。併せて、バリアフリー化の推進、ユニバーサルデザインの導入、施設の耐震化等を行うと共に、利用者の利便性の向上、トップレベルの競技や試合の観戦が楽しめる場としての整備を進めることにより、東京国体や国際スポーツ大会の開催にふさわしい施設へと再生するための改修を、計画的、総合的に実施していきます。

また、特に老朽化が著しい施設については、改築も視野に入れ、施設全体のあり方も含めて施設整備の方針を検討していきます。

(2) 主要施設 10 ヶ年維持更新計画

東京都は、平成 20 年 2 月に策定した「大規模施設等の改築・改修に関する実施方針」に基づき、今後 10 年間に於ける都営施設の維持更新を計画的に実施するための基本的な考え方として「主要施設 10 ヶ年維持更新計画」を平成 21 年 2 月に策定した。

この計画において、都立スポーツ施設の改修・改築についても、下記のとおり位置付けられている。

○「主要施設 10 ヶ年維持更新計画」対象施設

施 設 名	改築	改修
駒沢オリンピック公園総合運動場・屋内球技場	○	
駒沢オリンピック公園総合運動場・陸上競技場		○
駒沢オリンピック公園総合運動場・体育館		○
東京体育館		○
東京武道館		○
東京辰巳国際水泳場		○

※対象施設：おおむね築 35 年を経過している延床面積 3,000 ㎡以上の施設、
おおむね築 10 年を経過している延床面積 10,000 ㎡以上の施設等

(3) 施設の劣化度診断と利用者意向調査

各施設の経年劣化の現況を把握するため、各施設の劣化度診断調査を実施した（平成 20 年度）。診断の結果、竣工後、大規模な改修を行っていない屋内球技場・第一球技場・弓道場は、特に経年劣化が進行しており、早急な対応が必要であることが判明した。

また、実際に各施設を利用している個人・団体等に対して、改修・改築を行う場合の意向調査も同時期に実施しており、劣化が著しい上記 3 施設については、改善要望が多く上がっている。

(4) 東京国体・全国障害者スポーツ大会会場

平成 25 年に東京で開催される「第 68 回国民体育大会」（以下「東京国体」という。）において、テニス・ソフトテニスの競技会場として、本運動場のテニスコートが使用されることとなった。

また、東京国体と一つの祭典として開催される「第 13 回全国障害者スポーツ大会」（以下「全国障害者スポーツ大会」という。）においても、現在、本運動場の陸上競技場がフライングディスク競技会場の候補地に、体育館が卓球競技会場の候補地になっている。

2 計画の考え方

本基本計画は、上記の経緯を踏まえて、平成 23 年度からの改修・改築内容の方向性を示したものであり、今後具体的な基本設計及び実施設計を行うための諸条件を示したものである。

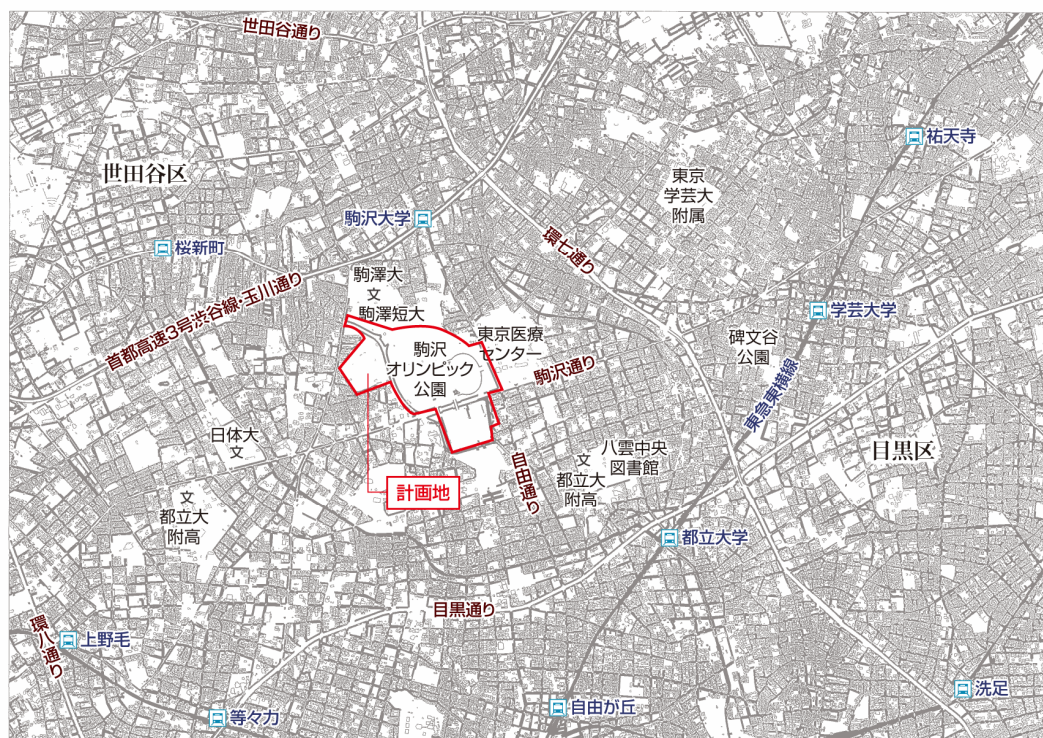
Ⅱ 敷地・施設の概要

「駒沢オリンピック公園総合運動場」

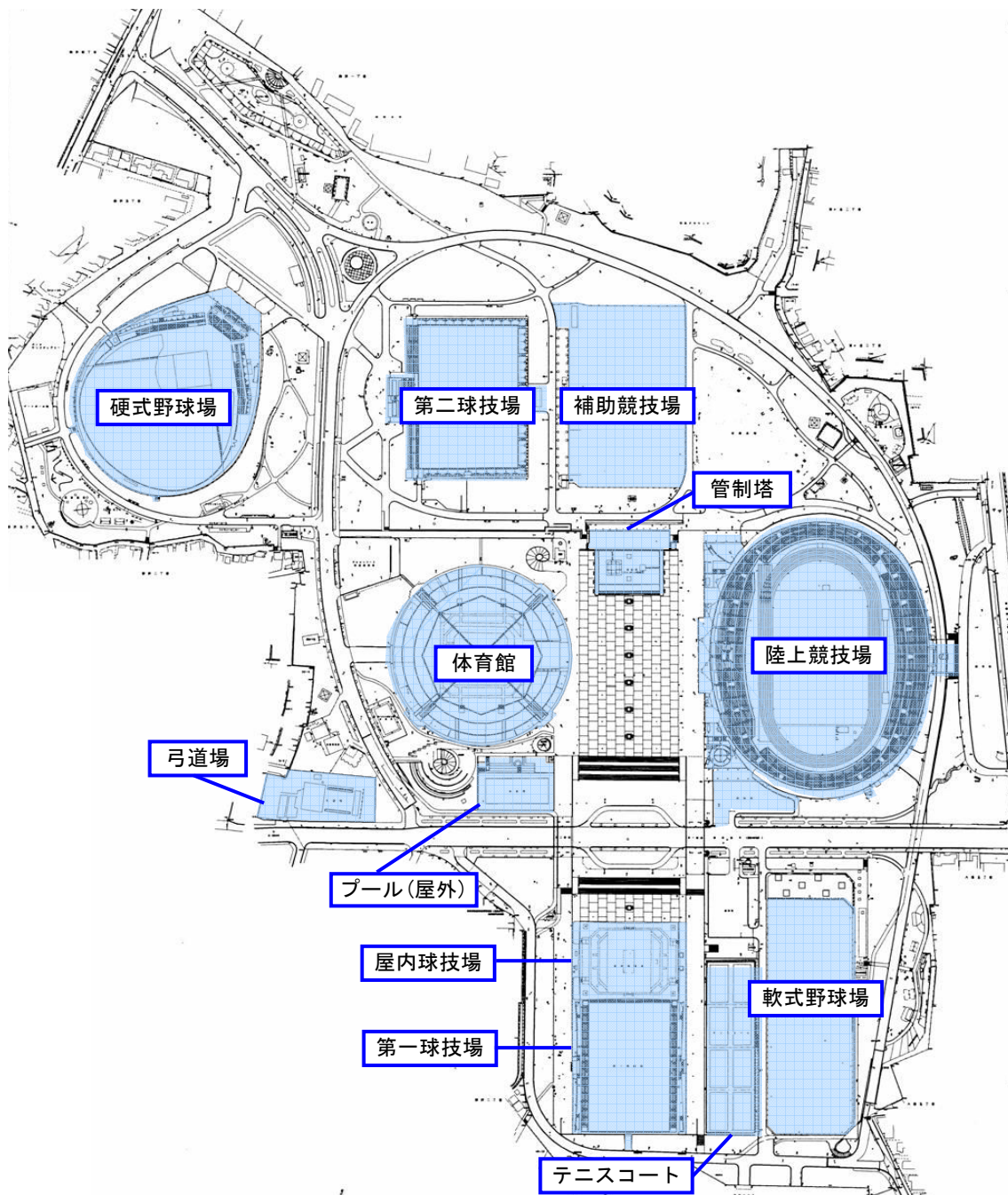
- 1 所在地 東京都世田谷区駒沢公園 1 番 1 号
2 敷地面積 開園面積 413,573 m²
うち、運動施設面積 141,432 m²
3 主要施設の概要

施設の名称	施設の概要			
	競技面積	建築面積	スペック等	主な競技種目
陸上競技場	18,260 m ²	10,148 m ²	日本陸連第2種公認施設 観客席：20,010席	陸上競技、サッカー、アメリカンフットボール、ラグビー等
屋内球技場	1,628 m ²	4,389 m ²	観客席：2,355席 フローリング：35.4m×46m	バレーボール、バドミントン、ハンドボール、バスケットボール、卓球、フットサル等
体育館	1,842 m ²	7,209 m ²	観客席：3,474席 フローリング：38.86m×47.4m	体操競技、新体操、卓球、レスリング、ハンドボール、バスケットボール、バドミントン、バレーボール等
第一球技場	8,890 m ²	112 m ²	観客席：2,016席 クレイフィールド	サッカー、ラクロス、アーチェリー、ゲートボール、ホッケー、運動会等
第二球技場	9,171 m ²	443 m ²	観客席：1,618席 人工芝フィールド（JFA公認施設）	サッカー、ラクロス、アメリカンフットボール、ゲートボール、運動会等
テニスコート	5,273 m ²	-	クレイコート8面	テニス、ソフトテニス
補助競技場	10,530 m ²	259 m ²	人工芝フィールド（JFA公認施設）	サッカー、ラグビー、ラクロス等
軟式野球場	12,565 m ²	-	競技面積は2面の合計	軟式野球、少年野球、ソフトボール
硬式野球場	12,956 m ²	464 m ²	両翼91m、センター120m	硬式野球、軟式野球、ソフトボール
弓道場	-	328 m ²	和弓：近約7人立 洋弓：30m・50m各3人立、18m6人立	弓道 アーチェリー（練習のみ）
プール	1,000 m ²	570 m ²	50m屋外プール、9コース	水泳
管制塔	-	1,057 m ²	地上12階、高さ50m	-

4 案内図



5 配置図



Ⅲ 施設の現状と課題

1 利用状況

駒沢オリンピック公園総合運動場のスポーツ施設利用者数は、現在、年間100万人を超えている。

全都・広域大会に対応する都立スポーツ施設として、全国高校サッカー選手権大会（陸上競技場）や高円宮杯フエニシングワールドカップ（体育館）をはじめ、各種目において、都・関東・全国・国際大会等が行われている。

また、東京都障害者スポーツ大会の会場としても毎年使用されているほか、子供や高齢者の大会等も多く行われており、幅広い層に利用されている。

各施設の稼働状況を見ると、ほとんどの施設について10年前と比べて大きく稼働率が向上しており、東京都のスポーツ振興の拠点としてますます重要な役割を担っていることがわかる。

○ 各施設の稼働率比較【団体利用施設】

施設名	平成11年度	平成21年度
陸上競技場	49.4%	73.4%
屋内球技場	62.8%	93.3%
体育館	78.0%	92.1%
第一球技場	71.9%	92.2%
第二球技場	76.8%	99.0%
テニスコート	92.1%	92.3%
補助競技場	84.4%	99.0%
軟式野球場	65.9%	77.3%
硬式野球場	90.4%	88.9%

2 施設・設備の深刻な老朽化

本総合運動場の各施設は、昭和 30 年代から 40 年代に設置されており、ほぼ、すべての施設について老朽化が進んでいる。特に、設置以来、大規模な改修を行っていない屋内球技場、第一球技場、弓道場、屋外プール等については老朽化が著しく、早急な対策が必要な状況である。

○ 各施設の設置年と改修・改築の経緯

施設名	設置年	改修・改築等	22年度改修予定
陸上競技場	昭和39年	大規模改修（昭和63年3月） スタンド改修（平成20年12月）	陸上競技場トラック・芝フィールド、外壁、電光表示装置等改修工事
屋内球技場	昭和39年	—	—
体育館	昭和39年	大規模改修（平成5年8月）	—
第一球技場	昭和39年	—	—
第二球技場	昭和39年	大規模改修（平成10年9月） 人工芝の設置（平成17年3月）	—
テニスコート	昭和39年	—	—
補助競技場	昭和38年	人工芝の設置（平成17年3月）	—
軟式野球場	昭和40年	—	—
硬式野球場	昭和45年	管理棟改築（平成20年5月）	防球フェンス更新
弓道場	昭和34年	—	—
プール（屋外）	昭和41年	—	—
管制塔	昭和39年	大規模改修（平成5年8月）	—

○ 主な劣化状況

・ 屋内球技場

外壁のコンクリートにひび割れが見られ、内部の壁・天井も劣化が顕著であり、雨漏りが随所で発生している。

また、受変電設備は建設時の設備であり計器類に不調が発生している。排水管も劣化が進行しており、詰まりが多発する箇所が出ている。

・ 第一球技場

スタンドの各所にひび割れ、コンクリート欠損が見られる。

また、給排水設備は建設時に設置した設備が更新されておらず、劣化が著しい。

・ 弓道場

建設から 50 年を経過した最も古い施設であり、建物の劣化が著しい。特に、木造の的場において、木材の腐食・破損が生じている。

- ・ プール（屋外）

監視塔・外周塀のコンクリート部分はひび割れの発生や汚れなど劣化が目立つ。

また、空調設備・給排水設備・ろ過設備等の劣化も著しく、漏水等が発生しており、応急的な修繕で対処している状況である。この他、ロッカーやトイレ等、直接利用者が使う設備の老朽化も進んでおり、施設としてほぼ限界に近い。

- ・ 陸上競技場

トラックフィールドは磨耗が激しく、電光表示装置は劣化が進行し、突然の稼働停止の恐れがある。外壁はコンクリートのはく落の危険がある（平成 22 年度改修予定）。

また、排水管は劣化の進行により排水不良箇所が見られ、給水管は漏水が発生している。空調機器等も建設当時から更新されていない機器について著しい劣化が見られる。

- ・ 体育館

平成 5 年に大規模改修を行っているが、その後 15 年以上が経過し、空調設備や給排水設備等に経年劣化が見られる。

3 東京国体への対応

東京国体会場として使用されるテニスコートは、現在、国体競技施設基準を満たしていないため、平成 25 年の開催までに対応する必要がある。

4 利用者ニーズへの対応

各施設に対して、利用者から多くの要望が寄せられている。

○ 利用者からの主な改善要望

- ・ 屋内球技場 ：冷暖房設備の設置・アリーナ段差の解消
- ・ 第一球技場 ：人工芝化
- ・ テニスコート：人工芝化
- ・ 弓道場 ：巻わら場の設置、観客席の設置
- ・ 総合運動場全体：公園案内・スポーツ施設案内等の窓口の統一，わかりやすい場所への移転
レストラン・カフェ等の休憩施設，更衣室・シャワー室等の設置

5 ユニバーサルデザイン・環境配慮の不足

設置当時は、バリアフリー、ユニバーサルデザインやスポーツ・フォア・オールの考え方が浸透していなかったこともあり、本運動場全体として、すべての人が使いやすい施設となっていない。本運動場は、全国障害者スポーツ大会の会場候補地（陸上競技場・体育館）にもなっていることから、早急な対応が必要である。

例：屋内球技場 施設内での上下の移動には、階段を利用するしかない。
第一球技場 観客席に上がるには、階段を利用するしかない。
陸上競技場 競技場内からは、観客用トイレに階段でしか行けない。

また、設備機器については、旧式の設備が設置されているため、そもそも省エネ性能が最新の設備に比べて劣っている上に、経年劣化によりさらにエネルギー効率が低減している状況である。

6 駐車場の不足

駒沢オリンピック公園内の駐車場は、土日休日には、駐車場待ちの列が連なる状態であり、収容台数が足りていない。利用者からの駐車場拡充の要望も強く、また、全国から選手・観客が集中する平成 25 年東京国体開催時の収容台数の不足も懸念される（現状は下表のとおり。）。

○ 駒沢オリンピック公園内駐車場（現状）

名 称	収容台数
第一駐車場（自由通り沿い）	181台
第二駐車場（駒沢通り沿いテニスコート側）	74台
スポーツ施設利用者専用駐車場（駒沢通り沿い陸上競技場側）	64台
スポーツ施設利用者専用駐車場（弓道場前）	8台

IV 改修・改築の基本方針

1 著しい老朽化への対処

これまでの改修の経緯と劣化状況を踏まえ、屋内球技場・第一球技場・弓道場については改築を行う。

陸上競技場、体育館などのその他の施設については、経年劣化した設備の更新・施設の補修等を中心に行っていく。

2 東京国体（平成 25 年）の開催に向けた施設の整備

テニス・ソフトテニスの東京国体競技会場となるテニスコートについては、国体競技施設基準に対応した改築を行う。

3 利用者ニーズを踏まえた施設の改修とスクラップ・アンド・ビルド

各施設の改修・改築に当たっては、できる限り利用者の声を反映し、使いやすい施設を目指していく。

竣工後 45 年近く経過し、老朽化の著しいプール(屋外)については、周辺に同様な施設の整備が進んでいることなどから廃止する。

また、新たに利用者ニーズを踏まえたサービス施設の設置を検討する。

4 すべての人が使いやすく、環境に優しい施設の整備

子供から高齢者まで、障害の有無や体力にかかわらず、誰もが生涯を通じてスポーツに親しめる施設を目指す。スポーツを「する」場合と「観る」場合の両方の視点から、施設の改修に当たってはバリアフリー改修を、改築にあたってはユニバーサルデザインの導入を進めていく。

環境配慮手法においては、「設備システムの高効率化」「再生可能エネルギーの導入」「施設緑化」等について検討し、環境負荷の低減を実現していく。

5 新規駐車場整備の検討

駐車場不足を解消し、大規模大会時にも対応可能な収容台数を確保するため、新たな駐車場の整備を検討する。

V 各施設の整備内容

IVの基本方針に基づき、改修・改築に当たっては、以下の視点で施設の見直しを行う。

1 改築を伴う施設の整備内容

(1) 屋内球技場

① 観客席の見直し

全面改築に当たり、現在利用されている大会実績等を考慮し、観客席数を適正規模に見直す(2,355席⇒1,530席(予定))。

② 競技フロアの拡大

観客席の見直し分等を活用し、競技フロアを広げることで、コート周辺スペース・選手通路等にも十分配慮した競技スペースを確保する。
(46m×35.4m ⇒ 47m×39m (予定))

- ・ バスケットボール 1面⇒2面
- ・ バドミントン 6面⇒8面

③ ユニバーサルデザインの導入

スロープ・エレベーター・だれでもトイレ・授乳室の設置等、誰もが使いやすい施設への転換を目指す。

④ 利用者ニーズへの対応

・ 選手ホール・選手控室の設置

次の試合を待つ選手の待機場所の不足を解消する。

・ ウォーミングアップ用の周回ランニングコースの設置

観客席の通路等を利用し、ウォーミングアップスペースの不足を解消する。

・ 冷暖房設備の設置

快適なスポーツ環境を実現するとともに、省エネ設備を導入するなど設備システムを高効率化し、併せてCO2の削減を図る。

(2) 第一球技場

① 観客席の見直し

全面改築に当たり、現在利用されている大会実績等を考慮し、観客席数を適正規模に見直すとともに、片側を芝生化して緑地を増加する。
(2,016席⇒1,000席+芝生席(予定))

② 公式サイズのフィールド確保

屋内球技場の省スペース化分等を活用し、競技フィールドを拡大することで、公式サイズのフィールドを確保する。

(104.4m×66m⇒110m×75m (予定))

- ・ サッカー 0面⇒1面
- ・ ラクロス(女子) 0面⇒1面

③ ユニバーサルデザインの導入

スロープ・だれでもトイレの設置等、誰もが使いやすい施設への転換を目指す。

④ 利用者ニーズへの対応

- ・ フィールド表面をクレイから人工芝へ
雨の後もすぐに利用可能な人工芝を採用
また、これにより、新たにホッケー競技でも使用できるようになる。

(3) テニスコート

① コート周辺サイズを国体競技施設基準に拡大

現状では上記基準を満たさないため、既存のテニスコートを拡大して整備する。面数は現状と同じ8面を確保する。

② 表面を砂入り人工芝化

雨の後もすぐに利用可能な人工芝を採用



(改築後イメージ)

(4) 弓道場

① ユニバーサルデザインの導入

だれでもトイレ・スロープの設置等、誰もが使いやすい施設への転換を目指す。

② 利用者ニーズへの対応

観客席や巻きわら場を設置するなど、利用者の声に応え、より使いやすい施設とする。

(5) 利用者サービス施設

公園及びスポーツ施設の利用者へのワンストップサービスを提供する利用者サービス施設などの設置の可能性について、整備手法を含め検討していく。

○ 改築後の施設概要一覧表

現在の施設			計画施設	
施設名称	主な競技種目	施設概要	施設概要(予定)	備考
1 屋内球技場	・バレーボール ・バドミントン ・ハンドボール ・バスケットボール ・卓球 ・フットサル 等	競技フロアサイズ : 46m × 35.4m 競技フロア面積 : 1,629㎡ 観客席 : 2,355席	競技フロアサイズ : 47m × 39m 競技フロア面積 : 1,833㎡ 観客席 : 1,530席	○コート周辺スペース・選手通路等 にも配慮した競技スペースの確保 ・バスケットボール 1面⇒2面 ・バドミントン 6面⇒8面
2 第一球技場	・サッカー ・アーチェリー ・ラクロス ・ゲートボール ・ホッケー ・運動会 等	フィールドサイズ : 104.4m × 66m フィールド面積 : 6,891㎡ フィールド表面 : クレイ 観客席 : 2,016席	フィールドサイズ : 110m × 75m フィールド面積 : 8,250㎡ フィールド表面 : 人工芝 観客席 : 1,000席 + 芝生席	○公式サイズのフィールドを確保 ・サッカー 0面⇒1面 ・ラクロス(女子) 0面⇒1面
3 テニスコート	・テニス ・ソフトテニス	コート仕様 : クレイコート8面 5,273㎡	コート仕様 : 砂入り人工芝コート8面 6,218㎡	○国体競技施設基準に拡張
4 弓道場	・和弓 (近的場: 28m) ・洋弓練習場 (50m・30m・18m)	和弓: 近的場 洋弓: 練習場	和弓: 近的場 洋弓: 練習場	○観客席・巻きわら場等を設置

2 その他の主な施設の整備内容

(1) 陸上競技場

① 老朽化した設備の更新等

建設当時に設置してから更新されていない、劣化が著しい設備を中心に、改修、更新していく。

② バリアフリー改修

現在、競技場内からは階段でしか行くことができない「観客用トイレ」の動線上に、エレベーターを設置するなど、バリアフリー化を進める。

(2) 体育館

① 老朽化した設備の更新等

経年劣化した給排水設備・空調設備等を改修、更新していく。

② バリアフリー改修

スロープに手摺を設置するなど、バリアフリー化を進める。

VI 新規駐車場整備の検討

1 現状における課題

・ 平成 25 年東京国体開催

全国から選手・観客が集中するため、駐車場が不足することが想定される。

・ 土日休日の駐車場不足

公園を貫通する駒沢通りでは、土日休日には駐車場待ちの列が連なるなど駐車場が不足している。

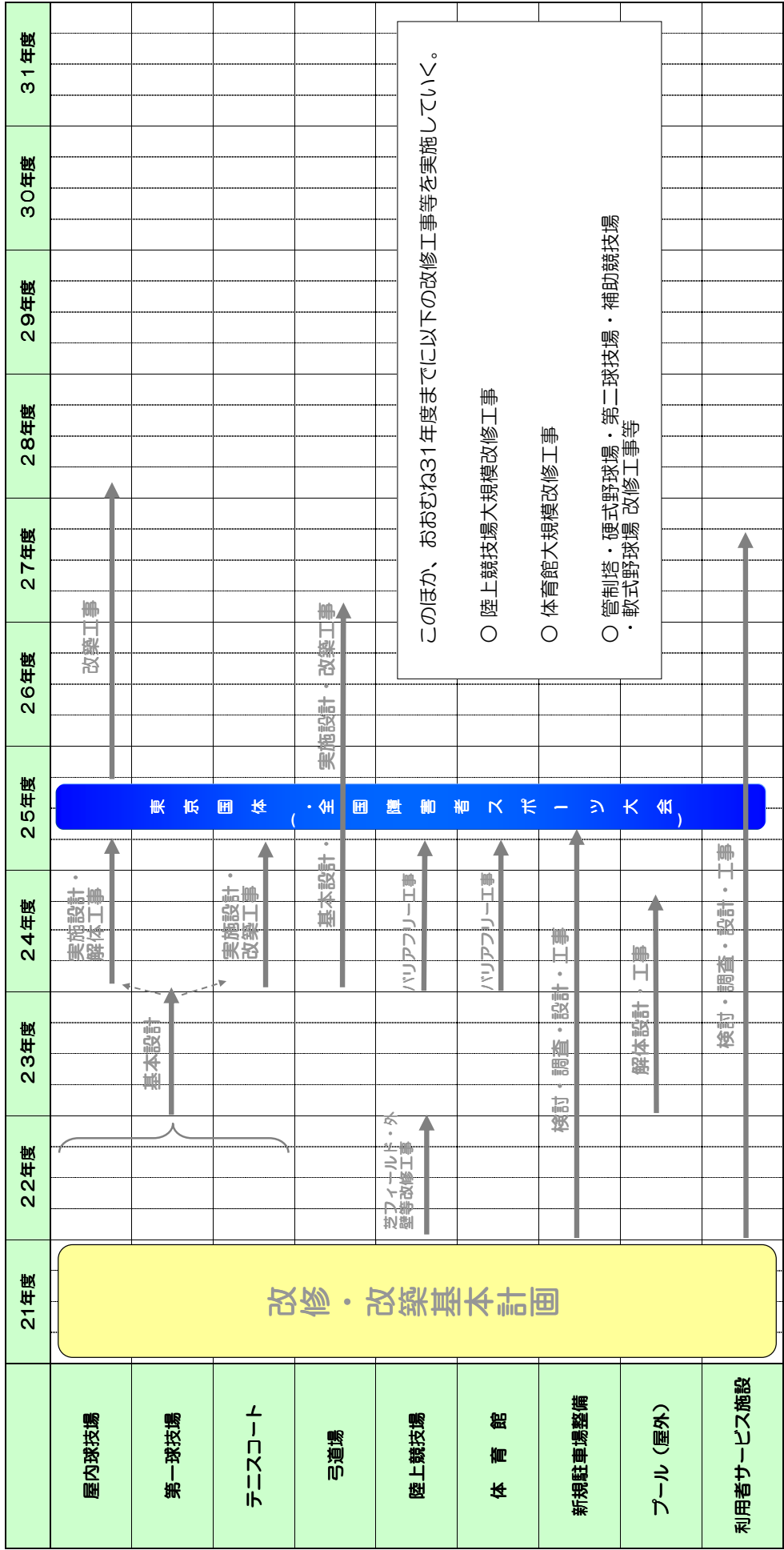
・ 利用者動線の確保

既存の主要な駐車場は、すべて公園の東寄りに位置し、公園西側へのアクセスが遠い。

2 新規駐車場整備の検討

上記課題を解決するため、駒沢オリンピック公園総合運動場の西側に、本運動場利用者の駐車場を整備することを検討する。

Ⅶ 駒沢オリンピック公園総合運動場改修・改築基本計画 スケジュール（予定）



※ 本スケジュールは、現時点での想定